

- 問1 1960年代から2010年代にかけて、日本の多くの地域では自動車道などの交通インフラが整備されました。この輸送網の整備が地域の産業構造に与えた影響について、1960年と2010年の就業者割合の変化を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 自動車道の整備によって都市部から農村部への移住が急増した結果、農業や林業などの第一次産業が地域の主要な産業として維持されるようになった。
 2. 輸送の利便性が向上したことで、工場誘致が進むとともに商業やサービス業が発展し、第一次産業から第二次・第三次産業へと産業の軸が移行した。
 3. 輸送網の整備よりも情報通信網の整備が優先されたため、工業生産額は減少傾向となり、伝統的な第一次産業が再び活性化した。
 4. 鉄道による貨物輸送が物流の主流となったことで、農産物の広域的な流通が促進され、第一次産業に従事する人口の割合が大幅に増加した。
- 問2 日本各地に見られる「地場産業」が持つ、一般的な産業構造上の特徴や成り立ちについての説明として正しいものはどれですか。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
1. 原料を海外から輸入して加工し、再び輸出するために、港湾設備が整った臨海部に集中している。
 2. 大規模な資本を投入して自動化されたラインを構築し、標準化された製品を全国へ大量供給している。
 3. 大学や研究機関との連携を前提として、高速道路のインターチェンジ付近などの交通の利便性が高い場所に立地している。
 4. 特定の地域において中小企業が密集し、分業体制などを通じて地域密着型の生産活動を行っている。
- 問3 日本の農業の形態について述べた文のうち、近郊農業に該当する具体的な事例はどれですか。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 北海道の十勝平野などで、大規模な畑でジャガイモやてんさいを生産する事例
 2. 茨城県や千葉県などで、東京という巨大な市場に向けて野菜を生産する事例
 3. 長野県や群馬県の高原地帯で、夏にレタスやキャベツを栽培する事例
 4. 宮崎県や高知県などの温暖な地域で、ビニールハウスを用いてピーマンを栽培する事例
- 問4 1960年代以降、日本の木材需給において国内生産量が減少し、輸入量への依存が高まった背景として、経済的・社会的な理由を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 戦後の大規模な都市開発により、日本国内の森林面積が半分以上に減少し、物理的に伐採できる木がなくなったため。
 2. 貿易の自由化が進んだことに加え、円高の進行によって海外産の安価な木材が市場に広く流通するようになったため。
 3. 日本国内の木材消費が、燃料としての利用から建築用へと完全に切り替わり、国内産の木材が建築に適さなくなったため。
 4. 政府が環境保護のために国内での伐採を法律で全面的に禁止し、すべての木材を海外から調達する政策をとったため。
- 問5 2015年の統計によると、岐阜県中津川市では昼間に市内に滞在する人口が77,807人であるのに対し、夜間に市内に居住している人口は78,883人となっています。このように夜間に居住する人口が昼間に滞在する人口を上回っている要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 広島県公立入試 類似)
1. 市外からの観光客が宿泊を伴わずに昼間だけ訪れる割合が、前年に比べて急増したため。
 2. 市内の高齢化が進み、生産年齢人口に代わって年金生活者が周辺地域から移住してきたため。
 3. 市内の出生率が死亡率を大幅に上回っており、自然増による人口増加が著しいため。
 4. 市外から通勤や通学で流入する人よりも、市内から市外へ通勤や通学で流出する人の方が多いため。
- 問6 日本が高度経済成長期に確立させた、海外から鉄鉱石や石油などの原材料や燃料を輸入し、国内の工場で高い技術を用いて製品を製造した後、再び海外へ輸出する貿易の形態を何といいますか。 (2025年 山口県公立入試 類似)
1. 委託加工貿易
 2. 地場産業
 3. 加工貿易
 4. 中継貿易
- 問7 森林は私たちの生活に欠かせない多くの役割を担っています。このような森林が持つ多面的な機能のうち、環境保全や防災に関わる役割の説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 山形県公立入試 類似)
1. 地中から地熱を発生させて周辺地域の気温を上昇させる機能や、大規模な工業用地を確保するために平地を提供する機能。
 2. 森林の土壌が雨水を一切通さないことで、降った雨をすべて短時間で河川へ流し、地中の水分量を一定に保つ機能。
 3. 光合成によって二酸化炭素を吸収し地球温暖化を抑制する機能や、樹木の根が土壌を固定して土砂崩れを防ぐ国土保全の機能。
 4. 海水の蒸発を促進して降水量を増やす機能や、地下に眠る鉱物資源を樹木の成長とともに地表へ押し出す機能。
- 問8 日本の農業産出額における品目別割合は、1960年代から現在にかけて大きく変化しました。かつては米が半分以上を占めていましたが、現在は野菜や畜産が米の割合を上回る傾向にあります。このような変化をもたらした社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 国民の食生活が変化し、米の消費量が減る一方で、肉類や乳製品、野菜の需要が増えたため
 2. 減反政策（生産調整）により、全ての農家が米作りを完全にやめて果樹栽培に転換したため
 3. 冷害に強い品種改良が進んだことで、東北地方以外でも米が過剰に生産されるようになったため
 4. 都市化の進行により耕地面積が減少し、米よりも狭い土地で生産できる畜産が主流になったため
- 問9 農業産出額の割合において、畜産が約3割、野菜が約3割とそれぞれ高い割合を占めている九州地方の農業について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2020年 北海道公立入試 類似)
1. 広大な十勝平野を中心に、ジャガイモや小麦などの畑作が大規模に行われている。
 2. シラス台地での畜産や、宮崎平野などでの野菜の促成栽培が盛んである。
 3. 冷涼な気候を活かした酪農が中心であり、乳用牛の飼育頭数が全国1位である。
 4. 水はけの良い扇状地を利用して、ブドウやモモなどの果樹栽培が全国的に有名である。
- 問10 日本の都道府県別の農産物収穫量において、宮崎県が1位を占めているきゅうりや、和歌山県・愛媛県が上位を占めるみかんのように、特定の地域に産地が集中する理由として最も適切な説明はどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
1. 寒冷な地域では農作物の栽培が不可能であるため、すべての産地が西日本や太平洋側に集中しているため。
 2. それぞれの作物の生育に適した気温や降水量などの自然条件に合わせ、適地適作が行われているため。
 3. すべての都道府県において、主食である米の生産から野菜や果実の生産へ一斉に転換したため。
 4. 消費地である大都市からの距離に関わらず、すべての農産物を全国一律の価格で輸送できる仕組みがあるため。
- 問11 京都府では、産地や栽培方法に独自の厳しい基準を設け、それを満たした農林水産物を認証して特定のマークを付けて販売する取り組みを行っています。このような取り組みを行う主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
1. 他産地との差別化を図り、品質の高さをアピールして消費者の信頼を得るため
 2. 栽培方法を簡略化して生産コストを抑え、市場で最も安い価格で販売するため
 3. 特定の地域だけで消費を完結させ、輸送にかかるエネルギーを削減するため
 4. 化学肥料の使用量をあえて増やし、形や色の良さを追求して生産量を増やすため